



国土交通省

NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、長原

(電話) 06-6949-6435

令和6年3月26日

「海の教室」～サンタマリア体験乗船会 と 海・船のお話会～

を開催しました！

近畿運輸局は、公益財団法人近畿海事広報協会との共催により、海事関係団体等からの後援・協力を受けて、「海の教室」～サンタマリア体験乗船会と海・船のお話会～を開催しました。

この行事は、海事思想の普及活動の一環として、将来を担う若年層を対象に、海洋国家「日本」にとって「海」がいかに大切か、そして普段意識することの少ない私たちの生活と「海運」の深い関係や、それを担う「船員の仕事」について理解を深めてもらうことを目的として、実施しました。

本企画は、従来は小学生を対象に実施しており、令和5年度に初めての試みとして中学生を対象に実施しましたが、昨年度に引き続き、2年連続で大阪市立築港中学校の生徒を対象に実施しました。

日時：令和6年3月18日（月）

場所：大阪港内及び大阪市立築港中学校

対象者：大阪市立築港中学校1年生20名及び引率教諭5名

講師：近畿内航船員対策協議会 構成員 磯合 信之 氏

講義内容：海の大切さと船員の仕事

配布パンフレット等：

- ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）



配布先：海運関係業界プレス

「海の教室」サンタマリア体験乗船会と海・船のお話会を実施しました。

■実施概要

日 時：令和6年3月18日（月）9：50～14：50

場 所：大阪港内及び大阪市立築港中学校

対象者等：大阪市立築港中学校1年生20名及び引率教諭5名

実施内容：①サンタマリア号大阪港内クルーズ

・船長講話 ・救命胴衣着用体験 ・ロープワーク学習

②講話「海の大切さと船員の仕事」

講師：近畿内航船員対策協議会構成員 磯合 信之氏

（三興海運（株）専務取締役）

主 催：近畿運輸局、公益社団法人近畿海事広報協会

協 力：近畿旅客船協会、公益社団法人大阪港振興協会、
大阪水上バス株式会社、近畿内航船員対策協議会

■内 容

① サンタマリア号大阪港内クルーズ



当日はやや風がありましたが晴天に恵まれ、穏やかな日差しに包まれながらのクルーズとなりました。まずは出港前に3つのグループに分かれ、船長講話、救命胴衣の着用体験、ロープワーク学習の船内行事を実施しました。

船長講話では、サンタマリア号を動かしている船員のことや、船内から見える様々な船舶に関することをクイズ形式で出題し、立地的に大阪港が近く、船を見慣れている生徒たちにとっても、初めて知る

ことが多かった様子でした。そして、命を守るための設備の一つである救命胴衣の着用体験や、船乗りの基本であるロープワーク学習においては、乗組員に実演をしてもらいながら、生徒たちは真剣に取り組んでいました。

船内行事が終了し、出港後は自由時間です。生徒たちは船内を散策したり、室内でくつろぎながらクルーズを楽しむなど、思い思いに船旅を楽しんでいました。



② 講話「海の大切さと船員の仕事」

大阪港内クルーズの後は、近畿内航船員対策協議会の構成員である磯合講師より、「海の大切さ」を知るために、普段目にすることや接する機会が少ない「海運」が、どのような形で私たちの生活に関わっているかを、世界地図やパワーポイントを使うなどしてわかりやすく説明しました。



講演では、物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、資源が少なく輸入に依存している日本において、産業の基礎を支える重要な役割を担っており、非常にやりがいがある仕事であることを伝えました。

午前中、サンタマリア号の船内から大阪港の様子を目にしていた生徒たちでしたが、船の大きさをわかりやすく伝えるため、大きな船であれば、日本最大級のビルをそのまま横にしたほどの大きさがあり、一度に大量の物資を運んでいることを説明すると、非常に驚いた様子でした。そして、様々な資源は全て船で運ばれていて、船が止まってしまったら、今と同じように暮らしていくことはできなくなるということを聞き、生徒たちは海運がとても大切だと実感してくれたものと思います。

船員の働き方として、2～3ヶ月乗船して20日～1ヶ月の休暇を取得するのが一般的なサイクルであり、住む場所と働く場所が同じであることから通勤の必要がないことなど、陸上職との違いを意識してもらい、船員という職業に接点の少ない生徒たちにもイメージしやすいように説明しました。また、長期間の休暇を利用し、自分の趣味や旅行を満喫できることなど、まとまった休暇を取得できる船員ならではのメリットも紹介しました。

そして、乗船しているあいだには、クジラを目にしたたり、イルカと併走することがあることや、毎日満天の星空の下で天体観測ができることなど、陸上では想像できないような経験ができることを実体験を交えて話し、また、給与面においても、船員は陸上職を大きく上回っている点など、船員として働くことの魅力を伝え、生徒たちも熱心に聞き入っていました。



最後に、「船員に限った話ではないが、中学生の頃に自分のやりたいことを見つけると、早くから知識を身につけることができ、その知識は社会人になってから必ず役に立つ。自分が興味のあることは頭にも入りやすいので、まずは興味を持つことが大切」という助言を送り、講演は終了となりました。

「船内でゲームはできますか?」「海技免状でどのくらい給与の差がありますか?」などの質問が寄せられ、時間の限り丁寧に回答しました。生徒も熱心に回答に聞き入っていたことから、船員の仕事に関心を持った様子でした。

今回、サンタマリア号に乗船したことや船長経験者の講話を聞いたことにより、生徒たちには海や船員の仕事を身近に感じてもらえたと思います。近畿運輸局では、関係団体等と連携し、これからも子ども達のために本取組を行っていきたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部)